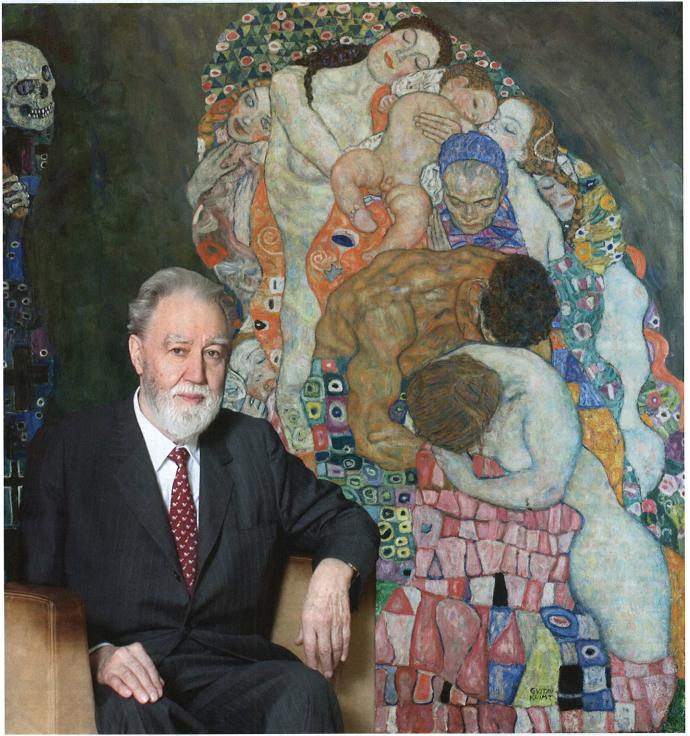
月刊ナイー プロルオリジナル取材と編集でウィーンを伝える月刊情報紙おかげさまで今年は創刊 23 年日 創刊 1989 年 No.268 GEKKAN-WIEN 2011年10月号





Rudolf Leopold vor Gustav Klimt Gemälde TOD UND LEBEN, 1910/15 Leopold Museum, Wien

10 JAHRE LEOPOLD MUSEUM 2001-2011 レオポルト美術館開設十周年

レオポルト美術館 創設者 ルードルフ・レオポルト博士 (1925年3月1日ウィーン生~2010年6月29日ウィーン没) レオポルト美術館所蔵 グスタフ・クリムト「死と生」1910/15 の前で

レオポルト美術館特別展『メランコリーと挑発』2012 年 1 月 30 日まで開催 エゴン・シーレ「自画像」1912 エゴン・シーレ「ヴィリ」1912



が二件あり、そこでも福島

と京

14 August 27, 2011

気付いた。

両市とも古都と

0

京

ウルとスウォンで国際会議 応答があった。 の福井県からの参加もあり、 原発事故について講演した。 ポジウムが開催され、やはり福島 のが趣旨であった。また、 場合に正しい情報を伝えてもらう ら福島原発事故について聞かれた 所事故について講演した。夏休み 象とした東日本大震災関連のシン 専攻に赴任している。 れのシンポジウムでも活発な質疑 には一般の方々を対象としたシン に入ると帰省する留学生が最近は 京都の大学に来ている留学生を対 七月より京都大学原子核工学 八月には韓国のソ 福島原子力発電 友人、 赴任早々 七月末 知人か 隣県

ず悠久の時を感じさせる 貌しているが、 学やその周辺は大きく変 生時代を過ごして以来、 ることは、原子力関係者と の情報を国内外に発信す ついて内外の関心は極めて 原発事故の状況について報 仏閣などほとんど変化せ しての責務と思っている。 京都生活は、 六年振りである。 七五年まで六年間学 事故に関する最新 福島原発事故に 山河や神社 一九六九

ブイリ事故の約1 による放射線に、 よる一般人の中華

とオーストリア・ハン

〇九年は日本

所もある。筆者は二〇

る。ウィーンでは一区を含む中心 都は東京遷都までの一〇七五年 名門ハプスブルク家が君臨し、 知のように、 も昔から水が有名で京料理の美 る水道は美味しく飲める。京都 都では北から南に鴨川が流れてい から南東にドナウ川が流れ、 まれた盆地であり、ウィーンは北 形も似ており、 年までの六四五年間、 しての長い歴史と伝統がある。 味しさも良い水に由来していると ルプスからの雪解け水が供給され 天皇陛下が御在所された。 欧州の首都では珍しく、 両市とも山に囲

京

ア

言われる。 いる。 溢れているのも似て 都市として、 百五十万人と極めて 百七十万、 人口もウィ も共通している。 者を輩出しているの 表大学であるウィー 大学が十人、 して街中に観光客が 人学が七人と国内随 のノーベル賞受賞 それぞれの代 国際的な観光 京都が約 ーンが約 現時点の 一年を通 京都

> その中には明治天皇が皇帝フラン スブルク家ゆかりの絵画と工芸の 関連についてご報告したい。 ばかりでなく、 と伝統を誇る両国の帝の親交がう 絵棚が含まれており、 枚の絵を綴じたもの)と二基の蒔 る日本の風景や暮らしを描いた百 ツ・ヨーゼフー世に友好のしるしと 西洋美術館の所蔵品のうち、 かがえる。次号以降も原子力の話 には京都国立博物館で「ザ・ に日本に初めて里帰りした。 して贈った画帖(当時の絵師によ ン美術史美術館とブダペスト国立 約百二十点が紹介された。 展が開催され、 ウィーンと京都の 百数年ぶり 歴史

スケッチしたので、 さを味わった。その際、東求堂を たが、寺の中は昔のままだった。 店が出来るなど大きく変わってい 寺に至る沿道の土産物屋は新しい で恐縮であるが掲載させて頂く。 りの東求堂と庭園の美しさ、 縁側に家内と一緒に座って書院造 りに銀閣寺(慈照寺)を訪問した。 少しでも伝わればと思い、 余談であるが、先日約四十年振 その雰囲気が 静寂

白四十周年を記念し 好通商航海条約締結

ノ関連のイベントが催

日本各地でウィ

京都に再び住むことにな

ンに赴任していたのだが、

二〇〇七年までウィー

似点が多いことに改めて

ウィーンと京都に類

(京都大学教授/元原子力 機構ウィーン事務所長